

---

# 魔術師達の夜

ウメ助

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔術師達の夜

### 【コード】

N0484C

### 【作者名】

ウメ助

### 【あらすじ】

これは型月の世界観にオリキャラ、オリ設定を加えた作品です。原作キャラは全く出ないと思いますのでどうかご了承の上お読み下さい。

## 第一話（前書き）

これは型月の世界観にオリキャラ、オリ設定を加えた作品です。原作キャラは全く出ないと思いますのでどうかご了承の上お読み下さい。

## 第一話

「少年、コイツらを助けたいか？」

「助けられるんですか」

「等価交換だよ少年、私はコイツらを治す、かわりにお前は

」

「夢、か」

俺、カミタニサユウ神谷左右は随分懐かしい夢を見ていたようだ。あれはまだ、そう小学生の時だっ『ジリジリジリッ』とヤバイヤバイ香気に昔を思い出している場合では無かった、時計を見てみるとどうみても学校に遅刻してしまう時間だ。

「目覚ましの時間を間違ったか」

さて、どうするか。

「とりあえず、メシでも食うか」

現在、俺はマンションの一室を借りて一人暮らしをしている。まあ、当然親の金でだが、一応バイトらしい事もしているがどうにも出費のほうが多くなっているのが現状である。

「でも、バイトに必要なしな」

はあ、とため息をつきながら女の子の手料理でも食べてみたいな、とくだらない事を考えながら少し遅い朝メシの食パンとイチゴジャムのハーモニイを寝起きの舌で味わっていると電話がかかって来た。

『起きていたか、お前に渡したい物がある。それに、用事もあるし午後一時に事務所に来い』

「ち、ちよつと、待つてください。何で師匠が俺が今日家に居る事を知ってるんですか!？」

『はあ、今日は日曜だが?』

「あゝ」

『寝ぼけていたのか、まあいいちゃんと来いよ』

どうやら、俺はまだ寝ぼけていたらしい。電話をして来た人は通称・師匠、冗談抜きでそれしか名前は知らないからしょうがない。そして、俺は師匠に“魔術”を教わっている。

## 第一話（後書き）

批判、誤字指摘等お待ちしております。

## 第二話

師匠の事務所と言うのは実は探偵事務所兼自宅だ。

魔術師にとって（といっても俺は魔術師見習いだが）自分の家つまり工房は大事な場所らしい、師匠には他の魔術師の家には出来るだけ近付くな、と言われた事がある。

師匠の事務所はビルの一階にあるのだが、師匠の話によると二階は魔術関係者専用の事務室に為っており、三階は師匠の工房らしい。あれ？一階の事務所に師匠がいない、二階かな？なんて考えながら俺は階段を上がり二階の魔術関係者専用の事務所のドアを開ける。

「おお、やっと来たか」

「そんなに遅かったですか？まだ一時にも為ってないと思うんですけど」

「ばか、こうゆうのは早く来た方がいいに決まってる」

「はあ、そうですね。そういえば渡したい物があるって」

「ほれ、これをやるよ」

「何ですか、これ？」

これは、剣だ。だが、どうみても実用的な剣ではない。明らかに儀式、式典用の剣だ。

「それに、魔力を込める」

「はい、判りました」

俺は師匠の言われた通りに剣に魔力を込めるために、自己を深く思考の海に沈めていく。

そして、頭の中にあるテレビチャンネルの番組をリモコンで変えるイメージで自己のスイッチを自ら変える言葉を紡ぐ。

「魔術常識、接続開始（チャンネル、コネクトオン）」

そして、その瞬間俺は魔術師になりその剣に魔力を込める。

「よし、もういいぞ」

師匠にそう言われ、俺はスイッチを切る。

「魔術常識、接続終了（チャンネル、コネクトオフ）」

「出来ました、師匠」

「よし、見せてみる」

師匠はしばらくその剣を見つめよし、と呟き俺にこう言った。

「これはな、アゾット剣と言って一般的な魔術礼装の一つだ」

「それがどうかしたんですか？」

「これはなあ、成人の儀に贈られる記念品だ」

「それじゃあ」

「ああ、お前は今日から一人前の魔術師だ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0484c/>

---

魔術師達の夜

2010年10月23日12時31分発行